

滋賀県における自殺の現状

今、日本では毎年3万人以上の方が自殺で亡くなっています。国では、「自殺対策基本法」および「自殺総合対策大綱」に基づき、自殺対策が進められ、滋賀県でも「滋賀県自殺対策基本方針」をとりまとめ、自殺対策に取り組んでいます。今回、自殺を予防するための基礎資料として、滋賀県における自殺の現状をまとめましたので、一部について紹介します。

自殺死者数の推移

厚生労働省人口動態統計では、平成20年の全国の自殺死者数は、30,299人、滋賀県の自殺死者数は312人（男218、女94）でした。昭和25年からの推移は図1のとおりで、平成8年以降、急激に増加し、平成15年に300人を超え、それ以降300人前後で推移しています。女性の死亡数は、ほとんど変化していませんが、男性の死亡数は急増しています。

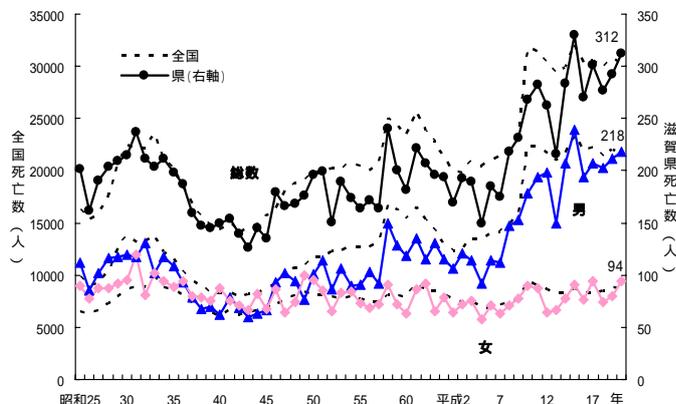


図1 自殺死者数の推移(人口動態統計より)

年齢階級別自殺死亡率の推移

昭和55年から約10年ごとの年齢階級別自殺死亡率（男性）は、図2のとおりです。40歳代後半から60歳代における死亡率が、平成12年、平成20年に高くなっています。働き盛りの男性の死亡率が上昇しており、この世代に山ができています。女性は、図に示していませんが、約20年前までは、高齢者で死亡率が高い傾向がありましたが、最近は、年齢階級による大きな差はみられなくなっています。

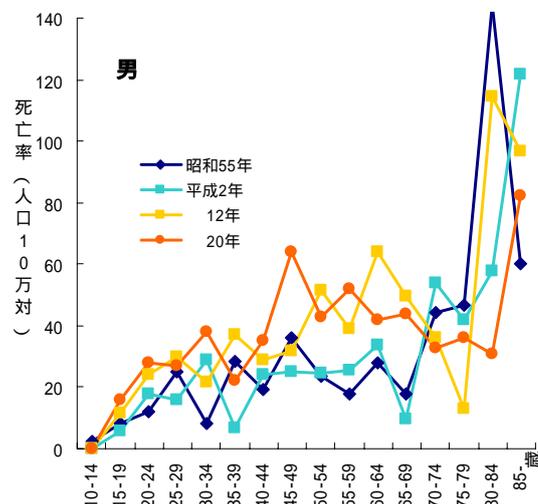


図2 年齢階級別自殺死亡率(人口動態統計より)

自殺の原因・動機別構成割合(平成19~20年)

警察庁自殺統計から、平成19年と20年合計について、原因・動機（大分類）別構成割合について、図3に示しました。1人につき、原因・動機を3つまで計上可能とした集計です（動機特定率約71%）。全国と比べて、健康問題の割合が低く、勤務問題、その他が高くなっています。また、図4は、原因・動機の小分類別について、1位から順に並べた図です。全国・滋賀県ともに、健康問題のうつ病が1位、身体の病気の悩みが2位となっています。

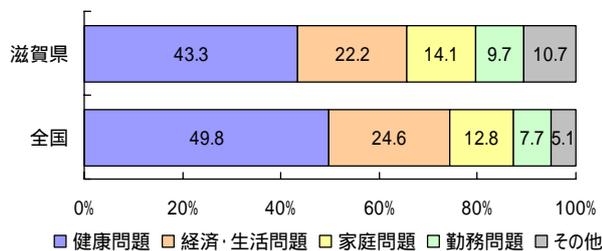


図3 自殺の原因・動機(大分類)別構成割合(警察庁自殺統計より)

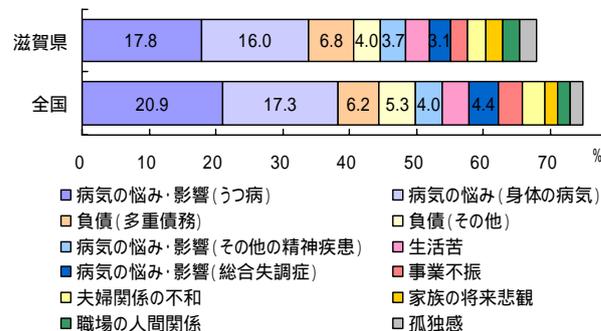


図4 自殺の原因・動機(小分類)別構成割合(警察庁自殺統計より)

おわりに

多くの自殺は、様々な悩みによって心理的に「追い込まれた末の死」とされています。そして、世界保健機関は「自殺は、その多くが防ぐことができる社会的な問題である」と明言しています。自殺を考えている人のサイン、救いを求める叫びに、気づくことができる感性をもつことが、私たちのできる自殺予防の第一歩ではないでしょうか。（注：自殺の統計には、厚生労働省の「人口動態統計」と警察庁の「自殺統計」があります。調査対象、調査時点、事務手続き上の違いにより、これら統計は一致しません。）